

ひびきあい

夏休み号

横浜市立新田小学校

ウィンブルドン選手権に思う……

副校長 飯塚 保夫

約40日間の夏休みが明日から始まります。今朝の朝会に参加した子どもたちの顔から、それぞれが充実した休みを過ごそうという思いを感じることができました。一人ひとりが自分らしさを出し、学校生活では体験できない素晴らしい思い出を作ってくれと信じています。

さて、6月下旬から今月13日までイギリスロンドンでテニス4大会の一つウィンブルドン選手権が開催されました。各国選手のすばらしい技術や最後まで力を振りしぼる姿に声援を送り、感動を覚えた方も多いと思います。テニス観戦好きの私もその中の一人だったわけですが、それとは別に、ビデオ判定を用いていることにとっても関心をもちました。

大きなテニスの大会では、審判が下した際どい判定に対して、選手自身が「チャレンジ」という制度を利用し、ビデオでの確認を求めることができます。また、テニスだけではなくレスリングやフェンシングでも、ビデオを用いて選手や選手サイドからの確認に応えたり、それを基に判定を見直したりすることがあるそうです。

その競技や種目に秀でている選手が集まり、実力や持っている技が接近している大会では、どうしても人間の目で判断がつかない場面や状況が多々生まれるのは致し方ありません。だからこそより公平な判定を下したり、選手からの要請に正しく応えたりするためにもビデオを導入し判定に生かすことには大きな意味と価値があると感じています。

私たちの普段の生活でも、公正に判断をして公平にものごとを見極めていくことはとても大切なことです。しかし、「この判断で正しかったのだろうか？ これで良かったのだろうか？」と迷うことも時にあります。ビデオを用いてその場面を確認することができない以上、物事を一面的ではなく常に幅広くとらえようとする見方や考え方が必要です。また、様々な声に耳を傾ける謙虚な姿勢、再度見直しや振り返りを大切にする慎重さ等をもったり身につけたりする努力が、とても大切なことであると痛感したしだいです。

改めて、私たち教職員も子どもたちが有意義に学校生活を送ることができるように、様々な角度や視点から一人ひとりを公平・公正にみつめていきたいと思えます。そのためにも保護者、地域の皆様には忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。